

グリーンツーリズム

ツーリズム大学



然別湖でのカヌー体験。子供たちの楽しそうな笑顔がこぼれる。

農家生まれの農家育ち、そして現在も農村に生き、父、母、妻、子供3人、孫3人。高校卒業後、長男という立場もあり、何のためらいもなく農業に入り、後継者として現在も農村で楽しく生きています。生計は畑作と牧場経営を兼ねる農業が長く続き、ここ15年ほど牧場経営、林業とファームインレストラン、乗馬等の兼業経営をしている。そして平成13年に開校した北海道ツ

ーリズム大学の学長をしながら、入植3代目で農業農村一色の人生を謳歌している。今までの北海道、十勝の農村を振り返り、北海道ツーリズム大学の設立のきっかけを探ってみる。

北海道十勝の農業スタイル

昭和40年頃から農村では人口が減り始め、それをカバーするように農業の機械化が進み始めた。一方、都会では工業化が始まり、農村出身者がその工業化の労働力となって高度経済成長時代を迎えた。今思うに、その頃の離農者はどこか明るささえ感じられ、辛く、きつい農業、暗い農村から逃げ出せるという感じさえして、離農者は脱落者というイメージではなく、離農が夢のある都会への出発という感じの時代であった。

十勝の農業人口は、その昭和40年代当時と今では3分の1から4分の1くらいに減少している。

その後、十勝農業はアメリカ型に憧れて、大型化、大規模化を目指して一直線に進んできた。農地の面積も増え、大型機械が導入され、わずか10〜20年後の昭和60年代には外観だけならすばらしい農家が数多く誕生した。農村にもバブルが押し寄せ、農地価格は10〜20倍となり、農家経営の基本になる農地の担保価値が上がり、非常に借金がしやすい時代となり、各種の補助金も導入され、農産物価格、政府管掌作物の価格は毎年上昇、今思えば農村のバブル時代であり、このままアメリカ型農業が定着するかとさえ思った時代である。

しかし、世界的には既に国際化時代、自由貿易時代に移り変わり、農作物も世界中から価格の安いものが次から次へと輸入されるようになり、北海道農業、十勝大型農業と言えども国際価格に抵抗していくのが難しい状況となってきた。「農業」「食料生産だけ」の時代の終りが来たと言える。

では、新しい時代の農業、農村の行き方は何で

あるのか。

これからの農村がなし得ること

私流の考え方だが、一つは農作物の「価格」、「量」で戦つてではなく、「安全性」、「おいしさ」で販路をみつけること。もう一つは、農業、農村の持っているすばらしい自然や人々の豊かさという農村資源を大切にしながら十分に活用することである。

この10年ほどで農村もずいぶん変化している。酪農家が自分でチーズやバター、ヨーグルト、アイスクリーム等を製造したり、農家が経営する農村レストランや宿泊施設、馬に乗って楽しむところなど、都会の人達が楽しめるものが沢山各地で芽生えている。

農村は、腹が膨れる食べ物から、心を満たすメニューまでを提供する場所へと変わりつつある。

地域資源を活かした交流：ツーリズム

さらに最近ニーズが高まっている「定年帰農」を望む多くの都会の人たちに場所を提供することや福祉や教育の場としての活用することなど、農村は都会の人たちを応援できる豊かな資源を沢山有しているのである。

これまでのような一方通行的な都会と農村の関係ではなく、農村の豊かさを都会の人たちに、そして都会の持つエネルギーを農村へ、という双方に利益になる対等な交流こそがツーリズムである。欧米では一般



千賀裕太郎氏((財)日本グランドワーク協会理事)による「地域づくりとしてのグリーンツーリズムとグランドワーク」の講義風景。



開校式(平成14年5月25日)で入学の動機を語り合い、交流を深めた。



第2回講座「地域づくり講座」:地域の人も参加して、ワークショップで地域再生プランを作成。



第3回講座「農と食学科」:地場産大豆を使ってミソづくり。このような実習も行っている。

的になっているツーリズムは、日本でも新しい旅のスタイル」として広がりを見せ始めている。

地域の資源を活かした交流がこれからの地域活性化の力である。

都会の人たちに農業農村に対する興味や理解を深めてもらい、このことを通じてツーリズムの担い手、地域づくりの担い手を育てていくことが北海道の農村、そして観光の発展につながるかと確信している。私達の「北海道ツーリズム大学」がその役割の一端を担うことができれば幸いであると思っている。

北海道ツーリズム大学の目標

北海道ツーリズム大学は、大きく分けて三つの柱から成っている。一つは「農と食学科」。ここでは、いの方の源である農・安全な食べ物とは、本物とは何かを深く考え、暮らしに生かす知恵を学び、そして農への理解を深めてもらう。二つ目は「地域づくり・ツーリズム学科」。日常に埋もれ、当たり前存在している地域の優れた魅力、地域の資源を見直し活かすノウハウを学び、人のネットワークづくりを推進し、ここでは知恵と人のネットワークづくりを学ぶ。最後は、「アグリビジネス学科」。農村を舞台に新しい事業を、生き方を始める技を経験豊かな実践者から学ぶ。また、田舎暮らし、E・Uターンのきっかけづくりの場になればとも思っている。実際、鹿追町では農家レストラン、ファームイン、教育ファームなど新しい事業が展開され、実績をあげている農業者がたくさんいる。また、互いに連携をとって活動をし、多くの関連事業者たちにも支援されている。

北海道ツーリズム大学は、農村を旅しながら学ぶという大学である。そして21世紀にあつた新しい生き方、自分らしいライフスタイル、人間らしさとは? を皆で語りながらそれらを探る旅、それがツーリズム大学だと思っている。受講生の、一歩踏み出す勇気を応援する」が私達の最大の目標である。

子供たちへ伝えたいこと

通常のカリキュラムの他に夏休み期間中を利用して子供たちに、北海道の中でも特に広大な畑や牧草地が広がる十勝の自然をせひとも体験させたい、触れさせたいと思ひ、鹿追町教育委員会と協力してインターネットを通じて募集した。問い合わせは定員20名の倍以上あり、その中から抽選で北海道外の子供たちが参加してくれた。熊本県大草町や茨城県からの参加者が多く、8割が女の子だった。日程は7月24日、30日と8月21日、27日の2回に分けて行い、1回目は農業体験や箱めがねを作らせて川散策をしたり、牧場体験をさせたりと豊富なメニューを企画したが、短い日程ですべてをこなすのは、子供たちにとって大変だったように見えた。私たちの子供たちに色々なことを体験させたい、楽しませたい、という大人の側から見ての思いが強過ぎ、子供の立場に立つと、それはあまりいい思い出づくりにほならないと反省した。そこで2回目は、「北海道らしい」、「十勝らしい体験を」ということで牧場体験に絞って体験させ、朝5時半に起床し、毎朝牧場の仕事の手伝いをしてもらった。また、期間中子供が4頭生まれ、その世話をしたことも、子供たちにとってよい思い出になったことと思う。

子供たちは、まだ冬の計画が決まっていないうちに、親への電話口で、「冬もまた来てほしい?」と尋ねたり、帰り際に「冬にまた来ます!」と言って帰っていった。楽しげな子供たちの姿を見ると、この企画を立ててよかったと実感した。

この子供たちが大人になるときに、ここでの体験が生かされればいいな、何かのきっかけづくりになればいいと小さな期待をしている。

私たちの取組みは始まったばかりでまだ小さいが、ここで学んだ多くの北海道生まれの小さな芽があちこちで大きな花を咲かせてくれることを願っている。

北海道ツーリズム大学
学長 中野 一成

2002年度ツーリズム大学講座			
学科	日程	講座内容	講師
ツーリズム学科 地域づくり	5月25日(土)~27日(月)	開校式 道東の自然の魅力を 十勝の自然の魅力を ツーリズム講座 入学生歓迎会	竹田孝史氏(観光地一帯(志村町)) 林文雄氏(十勝毎日新聞社) 村松誠氏(熊本大学教員)
	6月29日(土)~7月1日(月)	北海道の食をつくる ワークショップ 田舎の食文化の体験 ワークショップ 一泊二日 食文化講座	高野正樹氏(高野ファーム代表) 十勝県立高校(日本ケンカラー)
農と食学科	10月5日(土)~7日(月)	十勝の農村を体験して 十勝の農村の魅力を 安全な食生活と環境 あるごとく大田で「みそ・味噌」づくり	長尾義典氏(みそ(丹波)味噌製造所) 高野正樹氏(文芸大学講師) 高野たつみ氏(鹿追町長)
	11月9日(土)~11日(月)	マイスター講座 ワークショップ ワークショップ ワークショップ	三友行氏(鹿追町一帯) 大野氏(ファーム代表)
アグリ ビジネス学科	2003年 2月8日(土)~10日(月)	「農」をテーマにしたビジネスプランを ワークショップ 女性起業家フォーラム 「農」をテーマにした北海道の未来	吉田氏(モリタファーム代表) 岡田氏(鹿追町長) 松本氏(北海道道庁)
	3月8日(土)~9日(日)	卒業記念講座 卒業式・卒業パーティ	中野一成学長

2002年度特別講座		
定年得業講座 7月~9月	農の心くらしをテーマにした講座。支村会や 地域と交流する。	道東地域の作り手や関係者など(収穫した野菜を料理) 秋の山菜を採る(夏)の山菜やキノコ、キノコは食べ方
乗馬教室・園時	初心者から乗馬の楽しさを体験していただきます。	
ステレオ工房/1月	田舎の風景をステレオでつくる。	4日コース(2回) 受講料1万円
ファームイン 農業専門講座 1月18日~20日	ファームインで活躍したい方への講座です。 実務家、専門家から学びます。	高野正樹氏、高野たつみ氏、高野たけし氏(道の駅) 鹿追町のファームインから学ぶ 中野一成学長
ロゴビルダー講座/1月	伝統的ロゴビルダーの技術を学びます。 中野一成学長が講師です。	中野一成学長 中野一成学長

●日程や講師、講座内容につきましては都合により変更になる場合がございます。

2002年度カリキュラム